

3月議会が終了

3月定例会市議会は25日に終了しました。日本共産党市議団は暮らしの要求実現へがんばりました

3月定例会市議会は平成22年度の市予算を決める大事な議会でした。日本共産党市議団は暮らしと福祉・医療、雇用と営業・農業を守る市政を求め市長にその実現を迫りました。

177億円の予算は市民のために

当初、3月議会では都市計画税導入のための議案が出される予定でした。しかし、税の応能負担の原則に反することや市民の強い反対のもと、市長は議案の提案を断念しました。

集中改革プランでは、学童保育や子ども教室の保育料、各種検診負担、高齢者や障害者の循環バス利用料有料化など、市民負担の強化は年間約1億8800万円にも。さらに、国保税の大幅な値上げが提案されました。

共産党市議団は、「暮らしが大変な時、市民の大切な税金は市民のために使え」と求めました。かつてない大幅な国民健康保険税の値上げに共産党市議団は反対。他の会派は全員賛成しました。

暮らしがこんなに変なとき
市議会と議員の態度が問われます

共産党市議団提案の意見書採択 「国保への国負担増額」企業・団体献金禁止

今議会に共産党市議団が提案した「企業・団体献金禁止」「国民健康保険への国庫負担増額」を求める意見書が賛成多数で採択されました。国が市町村国保への負担を大幅に減らして以来、国保税の値上げがされてきました。社会保障制度として責任を持って国が負担を増額することを求めた意見書です。

ところが、公明党議員団や野洲ネットの会派は、「国の財政は大変。単に増額を求めたらいいものではない」として意見書に反対しました。「市民の暮らしはもっと大変」です。今議会でも国保税が30%を超える大幅な値上げがされました。はるかに支払い限度を超える国保税です。まるで、「金のない人は死ね」と言わんばかりです。

軍事費や思いやり予算、無駄な公共事業、年間300億円を超える政党助成金など、このような国の税金の使い方を放置して、「国の財政が大変」だからと言って、高い国保税を市民に押し付けることを容認しては命も暮らしも守れません。

3月定例会の主な議案の態度	太田健一	野並享子	小菅六雄	矢野隆行	梶山幾世	丸山敬二	西本俊吉	三和郁子	鈴木市朗	井狩辰也	市木一郎	坂口哲哉	田中孝嗣	立入三男	高橋繁夫	内田聡史	奥村治男	中島一雄	田中良隆	河野司	
	日本共産党	公明党	野洲ネット	野洲新風クラブ	新政クラブ																
一般会計予算(負担強化とサービス切捨ての内容)																					
国保税の大幅値上げ条例と国保会計予算																					
後期高齢者医療保険会計																					
議員の期末手当50%削減の条例改正																					
職員の期末手当大幅削減の条例改正																					
企業・団体献金の禁止を求める意見書																					
国民健康保険に対する国庫負担の増額を求める意見書																					
改正貸金業法の早期完全施行等を求める意見書																					
永住外国人への地方参政権付与の法制化に慎重な対応を求める意見書																					
選択的夫婦別姓法案について慎重に対応することを求め意見書																					
政治資金規正法の制裁強化を求める意見書																					
介護保険制度の抜本的な基盤整備を求める意見書																					



日本共産党演説会

5月29日(土)午後3時
大津市・びわこホール

市田忠義 日本共産党書記局長がお話します

参加のお問い合わせは下記の議員までご連絡ください



やす民報

日本共産党野洲市委員会
2010年3月28日 197

暮らしのご相談・要望
お寄せください

小菅六雄 (電話・FAX) 589-4971 (メール) shgdy177@ybb.ne.jp
野並享子 (電話・FAX) 587-0985 (メール) no73kyo_ko@ybb.ne.jp
太田健一 (電話・FAX) 588-3169 (メール) kensan.wor1d21@docomo.ne.jp

市議団ホームページをご覧ください
<http://www.yasusigi.net/>